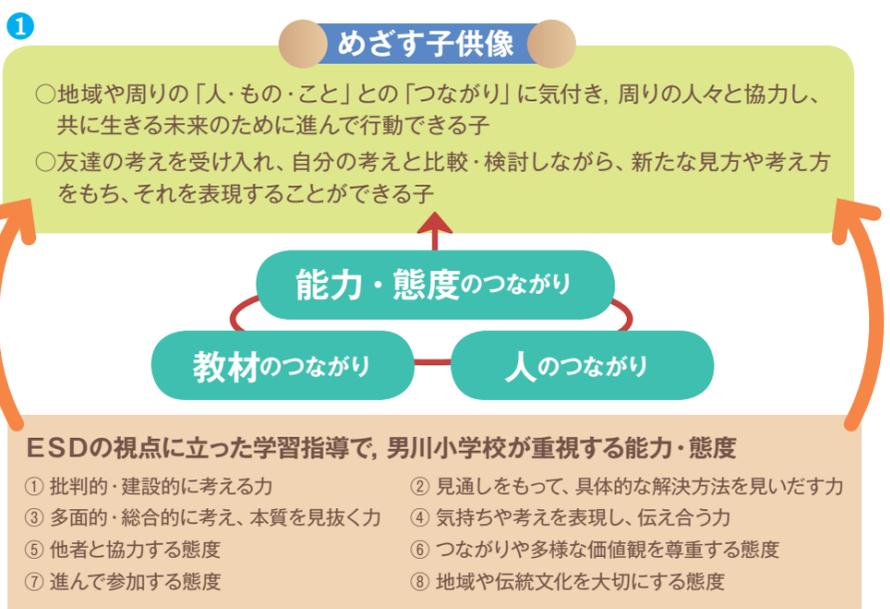


教科横断的な学習指導の推進

ESDの視点に立つ教科学習の展開



岡崎女子大学 子ども教育学部 教授 蜂須賀 渉

1959年愛知県生まれ。愛知県岡崎市公立小学校・中学校教諭、奈良女子大学附属小学校教諭、愛知県教育委員会西三河教育事務所指導主事、愛知教育大学大学院教育実践研究科(教職大学院)准教授、愛知県豊田市公立小学校教頭、愛知県岡崎市公立小学校校長を経て、現職。専門は、算数・数学教育、授業づくり、教育方法、教育課程。



2 1年「かたちともだち ～こころのはないっばい～」のESDカレンダー

※太字・太線は、大単元「かたちともだち」の中で、算数を中心として特に重点的に扱った小単元を示している。

教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	ひらがな・カタカナの読み書き 元気調べ(相手意識をもった関わり合い)											
算数	かずとすうじ	いろいろなかたち	かたちづくり		もののいち							
生活	みんなとなかよし なつとなかよし あきとなかよし ふゆとなかよし はなやさいをそだてよう「ほくの・わたしのアサガオ」、「ほくの・わたしのチューリップ」											
特活	やさしさをはなをいっぱいしよう かたちをいかして せいとんのはなをいっぱいしよう											
道徳	あぶない(節度、自制、自立) はしのうえのおおかみ(思いやり、親切) きいろいべんち(規則の尊重、公德心) おたのしみかい(愛校心)											
音楽	あぶない(節度、自制、自立) はしのうえのおおかみ(思いやり、親切) きいろいべんち(規則の尊重、公德心) おたのしみかい(愛校心)											
図工	みてみていっばい つくったよ	どうぶつむらのピクニック	「じぶんマーク」で みんなともだち①		うきつきボックス	「じぶんマーク」で みんなともだち②		おさんぽ トコトコ				
体育												
英語												



年間を通した掲示物により、子供はいつでも学習を振り返ることができる!

ESDの視点に立つ教科横断的な学習指導

ESD(持続可能な開発のための教育)は、次期学習指導要領の基盤となる理念である。そこで求められている資質・能力を育成するには、どのようなテーマを学習課題とするのかではなく、必要とされる資質・能力を育むことを意識した学習を展開することが重要となる。

男川小学校では、子供たちが教材内容の「つながり」や、周りの人々や社会、自然環境との「つながり」を意識できるように、ESDの視点に立つ教科横断的な大単元を設定している。子供たちは学んだ内容と今日的な課題のつながりに気づき、学習の過程を通して、子供たちの思考力、判断力、表現力を伸ばしていく。

男川小学校が重視する能力・態度

ESDの視点からの教科横断的な学習を一層充実していくためには、各教科等で重視する「批判的に考える力」「未来像を予測して計画を立てる力」「多面的・総合的に考える力」などの能力・態度を明確にして指導する必要がある。

男川小学校のめざす子供像に迫るため、国立教育政策研究所が例に示した「ESDの視点に立つ学習指導で重視する能力・態度(例)」を基にし、当校の子供の実態に合わせて、男川小学校が重視する能力・態度を本ページ上段①のように考えた。

ESDカレンダーによる授業構想

ESDの視点で大単元を設定し、年間の各教科等の指導内容の関連性や、教材のつながりを明確にするESDカレンダーを作成している。縦軸に「教科領域」、横軸に「月」ととっている。全教科等の単元を網羅して載せると、取り組みたいことが分かりにくくなるため、大単元に関連する各教科等のみを記載している。

左ページ上段②のESDカレンダーは、梅村保奈美教諭が小学二年算数科「いろいろなかたち」「かたちづくり」の学習を、生活科、図画工作科、特別活動と教科横断的に扱い、大単元「かたちともだち」を設定したものである。

「かたちともだち」の授業実践

① 立体を意識した「かたちあそび」

「かたちあそび」を、算数科「いろいろなかたち」、生活科の学校探検「わたしのがっこうどんなところ」と、図画工作科の小単元「どうぶつむらのピクニック」において実施した。

算数科 図画工作科の学習では、おかしな箱や空き缶で自由に遊び、形に親しむ時間を設けた。子供は、空き缶を転がしたり、何個も積み上げた箱と背比べをしたりして楽しみながら取り組んだ。「転がる」「積める」などの形の特徴や機能を活かして作品を作っている子供には、「柱のように高く積んだんだ!」「転がらないように

② 学びを生活に活かす

「かたちともだち」を、特別活動「かたちをいかして せいとんのはなをいっぱいしよう」(日常的な随時活動)において実施した。

朝のスピーチ活動で、子供が算数の学習がお道具箱の中の整理につながっていることに気が付いた。「お道具箱に四角グループや筒型グループがあったんだ」の発言から、クレパスや色鉛筆などのお道具箱にしまう様々な立体の特徴を考えて、効率良く整理する方法を各自で考えた。そして、「なぜ、そうやってお道具箱の中身をしまったの」と発問した。



にしたんだ!」などと学級全体に聞こえるように称賛した。立体の置き方を変えることにより「転がる」「積める」を確かめている子供の算数的活動を価値付けた。

また、「積める」などの空き箱や空き缶の形の特徴を活かして作った作品(左写真)を意図的に授業の中で紹介した。

③ 学習を生活へつなげる図形の「見える化」

「見える化」を、特別活動「やさしさのはなをいっぱいしよう」(日常的な随時活動)において実施した。

毎日の帰りの会の「友達のいいところみつけ」で出た「いいところ」を正三角形の紙に記録し、教室の背面へ掲示して増やしてきた(左下写真)。掲示を模様のようにして並べることで、図形を生活の中で身近に感じてもらいたいという願いを込めた。



あったので、ころころ転がるスティックのりを置くことにしました」という発表があった。

子供からは、「まず平べったいクレヨンを角から置きました。その上に、隙間がでないように四角グループを並べて置きました。最後に、お道具箱の隅に小さな隙間が

教科横断的な学習指導で、多面的・総合的に考えることができ、子供たちに育ってきたと感じる。

